



在宅療養ALS（筋萎縮性側索硬化症） 患者さんとのリモート交流

医学部ボランティアサークル

代表 医学部看護学科4年 磯崎 実矩・松岡 みゆ

医学部ボランティアサークルOG

代表 医学系研究科看護学専攻 M1 川上 聖加



環境マネジメントの概要

環境研究活動の紹介

環境教育による人材育成

学生主体の活動

社会的な取り組み

環境負荷の低減活動

第三者意見

2018年度に創設された香川大学医学部ボランティアサークルでは、在宅ALS患者さんの日常における心の支えとなることを目的に、2019年度に「在宅ALSボランティア班」を開設し、訪問ボランティア活動を行ってきました。しかし、居宅訪問活動は、Covid-19感染症まん延下では困難となり、趣旨継続のためにこのオンライン交流を新たな学生ボランティアモデルとして開始しました。

人工呼吸器装着中のALS患者さんやそのご家族は、コロナ禍での外出が制限されており、対人接触を避けたオンライン交流によって、孤立状態における孤独感を軽減し、社会とのつながりを感じられる日常を回復できればという顧問の助言の下で始めました。

オンラインの特徴は、遠方や異分野の方々との交流が可能であり、在宅の患者さんやご家族の日常に新しい世界を提供し、療養中のQuality Of Life(生活の質)向上や大学生と地域の交流促進の効果も期待できる活動であると考えます。



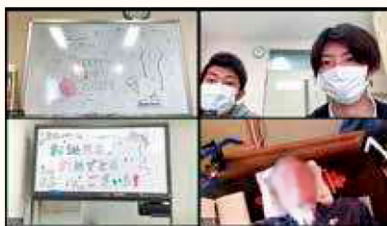
打ち合わせ時の集合写真

オンラインの実施は、学生同士の感染防止のため、各教室に少人数に分かれ、交流会ごとに患者さんと学生にアンケートを実施し、良かった点や改善点について情報収集を行い、参加メンバーにフィードバックして、実施方法の修正と学びに繋げることができました。

今後は、新たにリモート交流に参加する患者さんや学生を動員し、より多くの患者さんと学生がこのプロジェクトに参加することによって、互いに社会との繋

がりを持ち、地域で療養する患者さんのメンタルケアと学生の地域貢献意識の涵養^{かん}に繋げていきたいと考えます。

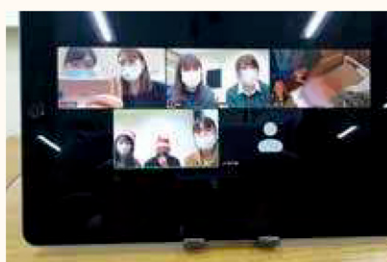
ALS患者さんは健康や心理状態がハイリスクであるため、学部学生の交流の基盤整備について、日本ALS協会香川県支部長岩本様と慢性期成人看護学清水教授の調整のもと、時間制約のない大学のZOOMをホストにさせていただくため、同講座の上原助教にご助力いただきました。



ALS患者さんのお誕生日をリモートでお祝いしている様子(第1回リモート交流)



学生が交流をしている様子(第1回リモート交流)



季節を感じられるようにサンタ帽子を被り交流を行っている様子(第2回リモート交流)



少人数に別れてリモート交流を行っている様子(第2回リモート交流)